

様式③

令和元年12月 5日

## 現場説明の質問に対する回答書

入札参加者 様

環境創造局 下水道設備課長  
松本 信幸

工事名	神奈川水再生センター第5系列反応タンク設備工事				
調達公告日	11月19日	調達公告番号	第160号	契約番号	1921010494

現場説明に対する質問及び回答は次のとおりです。

質問要旨	回答
1. 本工事について先行撤去が必要でしょうか。	1. 関連工事があるので、先行撤去を想定しています。
2. 本工事において想定される機器撤去現場開始時期をご教示ください。	2. 令和2年4月中の撤去終了を想定していますので、それに合わせて撤去開始することとします。詳細については契約後の協議とします。
3. 一度に全ての池で施工を行うことは可能でしょうか。又は施工する池の順序・期間等に指定はございますか。	3. 同時施工可能です。施工順序については特に定めていませんが、契約後の協議により決定します。
4. 反応タンク流入水路共通ゲート、反応タンク返送汚泥共通ゲートの撤去時に、止水のための仮設は不要と考えてよろしいでしょうか。	4. その通りです。
5. ステップ流入可動堰撤去後の【呑口開口】の閉鎖(埋め戻し)は本工事の対象外と考えてよろしいでしょうか。	5. その通りです。
6. 躯体開口はつり、及び埋め戻しの寸法は、図面寸法(縮尺寸法)と同一と考えてよろしいでしょうか。	6. その通りです。

<p>7. 図面 7/26 の反応タンク流入水路共通ゲート、反応タンク流入可動堰の撤去後は SUS 製蓋(開口部蓋)または、埋め戻し(開口部閉塞)となっておりますが、ステップ流入可動堰については記載がありません。本工事の対象外と考えてよろしいでしょうか</p> <p>8. メンブレンパネル式散気装置の必要酸素量(AOR)について〔特記仕様書 2 頁〕 メンブレンパネル式散気装置の必要酸素量(AOR)を算出された際の設定水温を、ご教示ください。</p> <p>9. 反応タンクYウォールに設置する開口部蓋について〔図面 7/26、8/26〕 反応タンクYウォール、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑通りに設置する開口部蓋の材質を、ご教示ください。</p> <p>10. 反応タンクYウォールで撤去する開口部蓋について〔図面 20/26、21/26〕 反応タンクYウォール、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑通りで撤去する開口部蓋の材質を、ご教示ください。</p> <p>11. 可動堰撤去後の呑口について〔図面 5/26、6/26、18/26、19/26〕 反応タンク返送汚泥投入可動堰、反応タンク全量投入可動堰及び反応タンクステップ投入可動堰を撤去した後の呑口部の躯体改造(開口塞ぎ)は、本工事の範囲外と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>7. その通りです。</p> <p>8. 設定水温は 24℃です。</p> <p>9. SUS304 です。</p> <p>10. ⑮通りの蓋の材質は SS400 です。その他質問された蓋の材質は PC 板です。</p> <p>11. その通りです。</p>
---	--

<p>12.可動堰撤去後の覆蓋開口について〔図面 7/26、8/26、20/26、21/26〕 反応タンク返送汚泥投入可動堰、反応タンク全量投入可動堰及び反応タンクステップ投入可動堰を撤去した後の覆蓋の改造(開口部仕舞)は、本工事の範囲外と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>12.その通りです。</p>
<p>13.撤去する反応タンク流入水路共通ゲートについて〔特記仕様書 5 頁、図面 24/26〕 特記仕様書に記載はありませんが、図面から本ゲートは電動操作式と想定されます。電動操作式の場合、電動機の出力を教えてください。</p>	<p>13.電動操作式ゲートです。電動機出力は3.7kW です。</p>
<p>14.現地施工方法について〔特記仕様書 18 頁〕 工事対象 6 池の同時施工(運転停止)が可能と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>14.回答3の通りです。</p>
<p>15.現地施工期間について〔特記仕様書 18 頁〕 予定されている撤去工事期間と据付工事期間を教えてください。</p>	<p>15.撤去工事は回答2の通り、据付工事は令和2年 10 月から令和3年 1 月を想定しています。詳細については契約後の協議とします。</p>
<p>16.メンブレンパネル式散気装置 付属品 圧力上昇予防装置に関して 特記仕様書 P2 第 2 条 目的・構造・材質等にて圧力上昇予防装置は含まないと記載があります。風量調整弁上流側に設置する手動バタフライ弁を空気遮断弁として使用することができるため、別途手動空気遮断弁及び手動圧抜弁も設置不要と考えますがよろしいですか。もしくは、設置をご想定の場合、手動空気遮断弁</p>	<p>16.特記仕様、図面のとおりで。</p>

<p>口径及び数量は、池風量調節弁(1)(3)と同じと考えますがよろしいですか。</p> <p>17.反応タンク流入水路及び返送汚泥水路開口部埋戻について  図面 3/26～6/26 にて反応タンク流入水路共通ゲート及び反応タンク返送汚泥水路共通ゲート撤去後の開口部を埋戻することとなっております。反応タンク流入水路及び返送汚泥流入水路は電磁流量計室となるため、施工時には隣接する4系及び6系は水抜きしており、止水することなく施工可能と考えますがよろしいですか。</p> <p>18.既設可動堰及び返送汚泥水路散気用空气管撤去後の開口部について  図面 5/26, 6/26, 9/26 にて、反応タンク全量投入可動堰、反応タンクステップ可動堰、反応タンク返送汚泥投入可動堰撤去後の開口部埋戻範囲に着色されております。この開口部埋戻については、別途土木工事範囲であり、本工事範囲外と考えますがよろしいですか。  また、返送汚泥水路散気用空气管撤去後の壁貫通部についても同様に着色されております。本工事範囲外と考えますがよろしいですか。</p> <p>19.最終沈殿池側流入水路埋戻について  図面 5/26, 6/26, 9/26 にて、最終沈殿池流入水路の一部埋戻部について着色されております。この埋戻部については、別途土木工事範囲であり、本工事範囲外と考えますがよろしいですか。</p>	<p>17.反応タンク流入水路及び返送汚泥流入水路隣接部は既に電磁流量計室になっておりますので、止水の必要はありません。</p> <p>18.反応タンク全量投入可動堰、反応タンクステップ可動堰、反応タンク返送汚泥投入可動堰撤去後の埋め戻しについては別途土木工事となっております。  返送汚泥水路散気用空气管撤去後の壁貫通部は本工事の施工範囲です。</p> <p>19.その通りです。</p>
---	---

<p>20.現地工事実施時期等について 本工事施工にあたり、5 系列全 6 池同時施工可能と考えますがよろしいですか。 また、別途土木工事が予定されておりますが、撤去工事時期及び据付工事時期に制限がありましたらご教示下さい。</p>	<p>20.回答3、15 の通りです。</p>
<p>21.池清掃等について 池清掃、及び排水・排泥作業は本工事範囲外と考えますがよろしいでしょうか。</p>	<p>21.池清掃は、神奈川水再生センター既設の散水栓を使用し、請負人が準備したホース・デッキブラシ等を使用して行うこととします。なお、排水・排泥作業は、発注者が行います。</p>
<p>22.コンクリート防食について 今回工事箇所の中で、既設でコンクリート防食が施されている箇所、または別途工事で施工予定の箇所がございましたら、ご教示下さい。また、補修を含むコンクリート防食工は本工事範囲外と考えますがよろしいですか。</p>	<p>22.別途工事にて反応タンク内の防食工事が予定されています。本工事において、防食工事は施工範囲外です。</p>
<p>23.反応タンク覆蓋撤去について 今回、攪拌機架台を設置する箇所の既設反応タンク覆蓋の撤去は、図面 20/26, 21/26 への着色や記載がございません。別途工事範囲であり、本工事範囲外と考えますがよろしいですか。</p>	<p>23.その通りです。</p>
<p>24.送気管停止について 今回、送気管の撤去・更新の際の送気管母管(口径 800A,900A)の送気停止は既存バルブの操作等で実施いただけるものと考えてよろしいですか。また、隣接する 4,6 系の運用の都合等により、送気停止の時間的制約等がございましたら、ご教示願います。</p>	<p>24.送気停止は発注者が行います。送気停止は2時間まで可能です。詳細については契約後の協議とします。</p>